

クラス道徳

「泣きすぎてはいけない」

あらすじ

この詩の「私」は、亡くなった祖父です。孫である「おまえ」へ、「生きている者の幸せを祈って」思いがつつられています。いっしょに聞いた鳥の声、赤とんぼを帽子で押さえて振り返った「おまえ」の自慢そうな顔など、共に過ごした日々を思い出し、「おまえ」に、泣いてもいいけれども「泣きすぎてはいけない」、「私が好きな おまえは 笑っていた おまえだから」と呼びかけます。それでも、「おまえ」が成長して、将来その子供がとんぼを押さえて振り返ったとき、「アア」と「私」からの命のバトンに気づくだろうとつづります。命の有限性、連続性について思いを深めることのできる詩です。

「生きている者の 幸せ」とは
どんなものだろう？



私が 好きだったのは、
笑っている おまえだったのだから

「泣いてもいいけど、泣きすぎてはいけない」
私のどんな思いが
込められているだろう？



【話し合ってみよう】（周りの人や家族とも話し合ってみよう）

「生きる」ということは、

いったいどういうことだろう？

<みんなの感動>

- 生きることの幸せについて、みんなで言い合うことができて良かった。改めて「生きる」について考えることができてよかった。(Nくん)
- 「泣いてもいいけど、泣きすぎてはいけない」という部分で「私」の思いがたくさん込められていると思いました。幸せを感じる時はそれぞれ違うけど生きることで幸せを感じるんだと思いました。(Oさん)
- 『100万回生きたねこが最後だけ生き返らなかったのは、ちゃんと生きる意味が見つかったからだと思います。だから私も生きる意味を見つけて、自分の人生をより良いものにしたいと思いました。(Tさん)
- 食べる、寝る、考えることは生きていないとできないことで、今“生きている”ということを通じて実感させられた。当たり前前は過去の人々が私たちに つないでくれたことだから、次は未来に残していかなければいけないと思いました。(Hさん)
- 私もおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなって泣いたことがあります。そのときはとても悲しかったけど、本文にあるように、時は忘れさせてくれます。でも、忘れたらいけないこともあると思います。「生きている」ということです。今の生活があるのは命をつないでくれた先祖のおかげなので、生きていること全てを幸せだと思わないといけないと思いました。(Jさん)
- 生きるというのは、好きなことができて、人の役にも立てて幸せなことだというのがよく分かった。だから、すぐに「死ぬ」とかそういう言葉を絶対に言うてはいけないことだともう一度分かった。(Yくん)
- 「生きる」ってことを深く考えると難しいと思った。当たり前前に思っていることが生きることじゃないと思うし、たくさんの経験ができて成長していけることが「生きる」ことだと思った。(Eさん)
- 「生きる」ということが当たり前すぎて、逆に「生きるって何？」と疑問になった。考えたこともなかったし、今日の道徳で考えることができたことが幸せって感じた。(Kさん)
- 難しいことなのに、めっちゃいいことが言える。2-5のみんながすごくかっこいいなって思いました。(Fさん)
- 生きていられるのはキセキのつながりで大切にしなければならない。だからこそ後悔のないように生きたい。(Hくん)
- 生きるっていうのは、いろいろあって、幸せや楽しいだけが生きるじゃなくて、辛いもの全部含めて生きるってことなんだなと思った。これからは命を大切にして、生きている喜びをしっかり感じて心のバトンをつないでいきたい。(Yくん)
- 私は今日の学習をして、「生きる」ということについて深く考えることができました。生きているからこそできることをたくさんしていきたいです。明日が必ずあると限らないし、「今日」を大事に「今」を大切にいつでも100〔%〕の力を出しきれるように頑張りたいです。(Tさん)
- 「生きるということはいざ、考えてみると、とても難しいことなんだと思いました。けどそれくらい存在しているっていうことは大きいことだし、小さなことでも、生きているから、それがあんだと思いました。(Hさん)
- 命があれば、人のために行動できるし、何でも挑戦できるから、生きている間にいろいろなことに挑戦したいなと思いました。笑うことは自分にとっても相手にとってもいいことだと思いました。(Kさん)